

東陶器

12月号
令和7年12月1日
堺市立東陶器小学校
TEL 236-0036
FAX 236-0020

「私たちの東陶器小修学旅行」をつくる

11月12日・13日の修学旅行は、天気にも恵まれ、全ての活動を予定通りに行うことができました。保護者の皆様には児童の体調管理等にご配慮いただきありがとうございました。本号では表題にある目標を掲げて修学旅行に臨んだ6年生の様子についてお知らせします。



最初の目的地は焼き物づくりの「宗陶苑」でした。到着は予定より遅くなりましたが、その後の児童の集中力はすばらしく、今年も限られた時間でそれぞれの作品を作り上げていました。ただ例年と違っていたのは、左の写真のように大胆なデザインの作品を思い切りよく作っている人が多いことでした。今回は校長になって以来11回めの修学旅行でしたが、左の写真のようなつぼ型の作品や、右のような木の葉の形をした（しかも葉脈までつけている！）作品には初めて出会いました。教えてくださった工房の方も、指導のしがいのある「匠（たくみ）の集団」だったのではないかと思います。毎年書いていることですが、校歌の歌詞の「遠い昔の営みに ゆかりも深い名は陶器」のとおり、古代の最先端技術を駆使した焼き物である「須恵器」（すえき）の工人たちのDNAが受け継がれている？ということを感じました。作り上げた手応え十分の表情も素敵です。



一日めの活動を終え、宿舎での食事が終わった後の、各クラスの出し物がまたそれぞれ見事なものでした。題材は学年で統一された「桃太郎」でしたが、そのアレンジに各クラスの特徴が出ていて見応えがありました。どんな内容かはこの日まで「極秘」にされていて、他のクラスの作品を見るのはこの日が初めてでした。写真のとおり、多種多様なかぶり物や段ボール製の「舞台装置」が用意されていて、バスに積み込むのも降ろすのも大変でしたが、出来栄のよさはそのデメリットを超えて余りあるものでした。作品の解釈がまたさすがは6年生というもので、鬼は「ネット上の悪意ある人々」であったり、人里に出て来て「害」を及ぼす「クマ」であったりといった工夫を凝らしていました。さらに、どのクラスとも、「鬼」は単なる悪ではなく、何らかの原因でそうならざるを得なかった人たちという設定で、最後は「桃太郎」たちと仲直りするというあたたかいストーリーでした。

修学旅行の目的地は、水族館にしてもテーマパークにしても「楽しさを与えてくれる」施設ですが、6年生のみんなはそれを超えて、自分たちで「楽しさを創り出して」いました。まさに目標に掲げた「私たちの修学旅行をつくる」にふさわしい、すばらしい2日間がつくられたと思います。

卒業まであと4か月足らずとなりました。小学校生活最後の4か月の中で一人一人が目標をもち、自分たちのよさにさらに磨きをかけ、個人として、集団として、すばらしい最高学年のあり方を後輩たちに残してほしいと思います。（ホームページにカラー版を掲載していますのでご覧ください（裏面も））

12月の行事予定

1	月	学費振替日 テレビ朝礼 スクールカウンセラー来校日
3	水	太陽学級5・6年クリスマス会（泉ヶ丘東中） 4年研究授業 S4下校13:15 ごろ（4・3は下校15時ごろ）
4	木	個人懇談 S4下校13:15 ごろ
5	金	個人懇談 S4下校13:15 ごろ
7	日	※東陶器ふれあいまつり（体育館・運動場）10:00～15:00
8	月	個人懇談 S4下校13:15 ごろ
9	火	個人懇談 S4下校13:15 ごろ
10	水	委員会活動 1～4年A4下校13:45 5・6年A5下校14:50
11	木	3年出前授業 全学年A4下校13:45 PTA役員会19:00
12	金	全学年A4下校13:45 ごろ
15	月	テレビ朝礼 スクールカウンセラー来校 全学年A4下校13:45 ごろ
16	火	6年出前授業 全学年A4下校13:45 ごろ
17	水	クラブ活動 1～3年A4下校13:45 4～6年A5下校14:50
18	木	全学年A4下校13:45 ごろ
19	金	全学年A4下校13:45 ごろ
22	月	テレビ朝礼 スクールカウンセラー来校 全学年A4下校13:45 ごろ
23	火	給食最終日 下校13:45 ごろ
24	水	終業式 A3下校11:30 ごろ 堺市一斉下校指導

※7日の「東陶器ふれあいまつり」は地域の行事で参加は自由です。

※11・12日、15・16日、18・19日、22・23日は
全学年4時間で下校は13:45頃です。

「土を握ればこの腕に 強い力がわいてくる」作品が届くのが楽しみです。



教育目標
○よく考え 主体的に活動する 心豊かな子の育成
○自分大好き ○友だち大好き ○学校大好き
教職員像
子ども一人ひとりのために「学校力」を発揮する教職員
子どもたちの学びを支える笑顔いっぱい元気な教職員
子ども像
○笑顔で登校し、笑顔で下校する子ども
○感謝の気持ちを言葉で伝えられる子ども

・1月の主な行事

○5日（月）

学費振替日

○8日（木）

3学期始業式

A3下校11:30 ごろ

○9日（金）

A3下校11:30 ごろ

○13日（火）

給食開始 A4

○14日（水）

初研

S4下校13:15 ごろ

○22日（木）

6年交響楽団鑑賞

○28日（水）

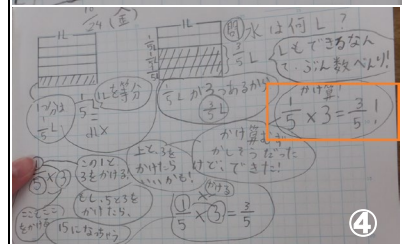
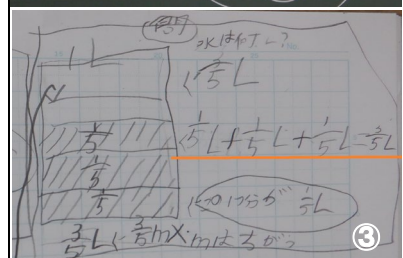
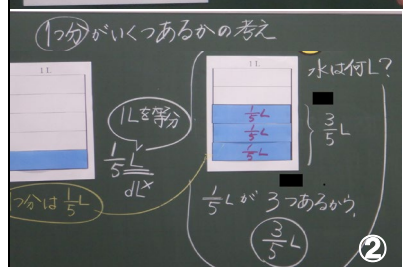
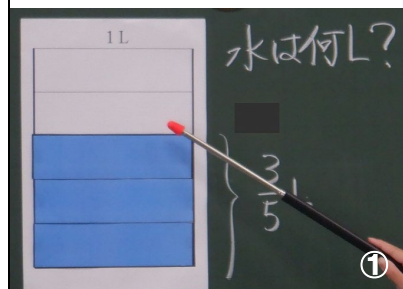
委員会活動（5校時）

○30日（金）

5年研究授業

S4下校13:15 ごろ

数についての見方を広げるには



左の写真①は3年分数の学習の一場面です。青で表した水が何Lかを問うていますが、多くの児童が5分の3Lと正しく答えを出しました。しかし本校では、なぜこれが5分の3Lなのかという「見方」を大切にしたいと考えています。単に答を出すだけならば、「1Lを5等分した3つ分だからだ」でよいのですが、もう少し突っ込む必要があると考えました。そこで、2年かけ算の学習以来児童がもっている、(同じ大きさの) 1つ分×いくつ分=全部の数という見方とつなげることにしました。この場合なら、1つ分は5分の1Lであることをはっきりさせたうえで、その3つ分だから5分の3Lになるのだという見方ととらえるということです(写真②)。

写真③はこの時間の児童のノートですが、5分の1のいくつ分という見方を得ることによって、この場面が $1+1+1=3$ というたし算で解決できることに気づいています。分数のたし算はまだ学習していませんが、1つ分が同じ大きさならたし算で計算できるという既習事項とのつながりができました。さらに写真④は、1つ分の5分の1が3つ分なのだから、かけ算で答えを出せるということ(6年で学習)にまで気づいています。ここには、分数という数の表し方についての深い理解が見られます。つまり「5」という分母が表しているのは「1つ分の大きさが5分の1である」ということであり、「3」という分子が表しているのは「1つ分の5分の1が『3つ』ある」ということだという理解です。このことによって「分数のたし算・ひき算やかけ算は分子だけをたしたりひいたりかけたりすればよい」という表面的な理解に終わるのではなく、「単位とする分数(1つ分の分数)のいくつ分という見方をするから、分母は変わらず、分子のみの計算になるのだ」というより深い理解が可能になります。

こうした見方は、分数以外の算数の学習にも役立っています。写真⑤は重さの学習の一場面です。1000kg=1t(トン)を学習した上で、カバの体重2100kgは何tなのかを考えます。この児童は「21t」という考えに対して「1000が1つ分なのだから、2000kgが21になるのはおかしい」と反論しています。これは、「かけ算」「分数」等の個別の知識や技能を統合した数の見方を会得しているからこそのであり、教科の本質によってしっかりと鍛えられた児童の姿です。こうした学びを増やしていきたいと考えています。

修学旅行の様子です。(令和7年11月12日・13日)



学校の様子はブログでもお知らせしています。 <http://www.sakai.ed.jp/weblog/index-i.php?id=sakai058>

